

大正紡績

シルク混紡でUVカット

オーガニック綿ベースに



近藤取締役

材料開発を加速させている。とくに注目しているのが、シルク混紡による有害な紫外線遮断効果だ。

紫外線には、波長によってA波、B波、C波がある。A波は、日焼けの要因となる光線だが、人体への有害度は比較的低い。逆にC波は最も人体に有害だが、ほとんどが大気中のオゾン層で吸収される。問題なのがB波。これはオゾン層の増減によって地表に到達する量が変わる。一説には、近年のオゾン層減少で、地表に到達するB波が20%増加したことで、皮膚がんの発生率が5〜7%増加するという。

大正紡績は、オーガニックコットンをベースにウール混紡、カシミア混紡など複合素材の開発に力を入れている。とくにシルク混紡による紫外線遮断効果は、環境や健康に配慮した素材として注目を集めそうだ。

近藤健一取締役営業部長兼東京事務所長によると、同社の開発コンセプトは「軽量・アラス吸湿速乾を基本に環境や健康に配慮した素材」として、オーガニックコットンにウールやカシミア、シルクを混紡した素材があるのがシルクを構成する

るフィブロイン(絹が日光で黄変するのは、このため)。

長野県工業技術総合センターの平出真一郎主任研究員の研究によると、絹フィ

ブロイン加工布を使った実験で、紫外線B波の吸収・遮断に効果があることが実証された。

この点に注目した大正紡績では、同社が取り組むオーガニックコットンにシルクを混紡することでUVカット機能を持つ素材を開発した。混紡する真綿も、天然の多孔質を持つタッサールシルク(柞蚕)を使うことで、紫外線吸収効果を高め

た。また、獣毛と混紡することで一段と優れた風合いとなる。

すでに、オーガニックコットン・カシミア・シルク混紡で商品化も行っており、有名ブランドに採用された。近藤取締役は「環境や健康が注目を集めるなか、ユーザーの反応は高い」と今後の展開に自信を見せている。